令和２年８月 11 日

令和２年

第７回教育委員会定例会会議録

大田区　　池上会館

令和２年８月11日（火曜日）午後２時から

１　出席委員（６名）

小　黒　仁　史	教育長
三　留　利　夫　　　委　員	教育長職務代理者
弘　瀬　知江子　　　委　員	
髙　橋　幸　子　　　委　員	
深　澤　佳　己　　　委　員	
北　内　英　章　　　委　員	

２　出席職員（23名）

教育総務部長	玉　川　　一　二
教育総務課長	政　木　　純　也
教育施設担当課長	鈴　木　　龍　一
副参事（教育地域力担当）	丹　野　　詩　織
副参事（施設調整担当）	荒　井　　昭　二
学務課長	柳　沢　　憲　一
指導課長(幼児教育センター所長兼務)	岩　﨑　　政　弘
副参事	早　川　　隆　之
副参事（法務担当）	平　栗　　敬　子
学校職員担当課長	池　　　　一　彦
教育センター所長	柿　本　　伸　二
大田図書館長	長　岡　　　誠
指導課　統括指導主事	木　下　　健太郎
指導課　統括指導主事	志　賀　　克　哉
指導課　統括指導主事	古　川　　大　輔
指導課　指導主事	中　治　　謙　一
指導課　指導主事	今　井　　洋　登
指導課　指導主事	山　﨑　　大　志
指導課　指導主事	秋　山　　　亮
指導課　指導主事	辻　　　　慎　二
指導課　指導主事	折　田　　和　宙
指導課　指導主事	南　　　　博　幸
指導課　指導主事	浅　羽　　宏　美

３　日程

日程第１　令和３年度使用大田区立中学校教科用図書採択について

~~~~~~

（午後２時00分開会）

○教育長

ただいまから、令和２年第７回大田区教育委員会定例会を開催いたします。
~~~~~~

本日は、中学校教科用図書採択の審議を行いますので、大田区教育委員会会議規則第14条により、教科書採択関係職員も出席しております。
本日は傍聴希望者がおります。大田区教育委員会傍聴規則第７条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力よろしくお願いいたします。
なお、新型コロナウイルス感染の拡大を防止するため、本日はマスクをお持ちの方については、マスクの着用の上で審議を進めさせていただくとともに、効率的な会議運営にご理解、ご協力をお願いいたします。
それでは、これより審議に入ります。
本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。
まず、会議録署名委員に髙橋委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。
続いて、本日の日程第１について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員
日程第１は、「令和３年度使用大田区立中学校教科用図書採択について」でございます。

○教育長
それでは、令和３年度使用大田区立中学校教科用図書採択の審議を行います。
前回、第６回定例会において、教科用図書調査委員会、加藤委員長及び田谷副委員長から調査報告がありました。各委員には、教科用図書をお読みいただくとともに、調査報告及び区民意見、学校意見を参考に、真摯に調査・研究を進めていただいたことと存じます。
今回の教科用図書採択の審議対象は、10 教科 16 種目です。
審議は本日と明日、12 日の２日間とし、13 日は予備日としたいと存じます。これについて、ご異議のある方はいらっしゃいますか。

（「はい」との声あり）

○教育長
異議がないものと認め、審議は２日間といたします。
まず、本日は、国語、書写、社会（地理）、社会（歴史）、社会（公民）、地図、数学の７種目について審議を行います。審議が長引くようであれば、幾つかの種目を明日に繰り延べるということでよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長
それでは、種目ごとに審議を行ってまいります。
初めに、国語について審議いたします。国語の発行者は４者あります。
それでは、委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○三留委員
　三留でございます。
　国語は、「三省堂」を推薦いたします。
　国語は、今回、目標の観点、評価基準が大きく変わりましたが、各者それを意識した記述が見られます。それぞれの教科書の冒頭ページは、身に付けたい力を表にしていますが、「三省堂」と「光村」は、話す、聞く、書く、読むの各領域で、身に付けたい力を、知識・技能、思考力・判断力・表現力との関わりで示しています。特に、「三省堂」は、マトリクスを用いて、具体的にどのような力を付けることが必要なのかを示しています。さらに、教科書の使い方のページでは、主体的・対話的で深い学びをするために、話す、聞く、書く、読むの各領域での学習課程を示しています。
　各者の読む題材とその扱いの比較をいたしました。各者とも、目標を２つ程度示し、題材文の後に「手引き」などの名称で、学びの方法を紹介して、学習を進めるようにしています。題材文の前にも後にも学びの方法を示している者もありました。
　「三省堂」は、題材文の後の「学びの道しるべ」に学びの過程を示して、学習の流れごとに、何をするのか見通しを持って学習が進められる内容になっていると感じました。今年のような、コロナ禍などがあったときの自学自習という視点からも良いと感じました。
　「走れメロス」は、２年生の全ての者の教科書に取り上げられています。４者の目標を比較しましたが、「三省堂」は「人物の言動の意味を考え、人物像とその変化を捉える」、「工夫された表現に着目して、文体の特徴を捉えて読み味わう」となっていて、作品の主題や特色に迫る読みの目当てになっていると感じました。
　「学びの道しるべ」では、「内容を整理する」、「読みを深める」、「自分の考えを深める」、「学びを振り返る」の学習の流れに沿って明快に学習の仕方が示されており、目標に迫る学習ができると思いました。
　また、この題材では、考えを深めるために、思考の方法として「抽象化」を紹介したり、「心内語」について触れたりするなど、学習を深める工夫が見られます。「学習を広げる」では、「この小説を映画化するとして、キャッチコピーをつくってみよう」とあり、発展的な取扱いでも工夫が見られます。
　各者、古典については、折り込みを活用し、興味を引く説明や解説など工夫が見られますが、１年生に出てくる古典の「竹取物語」は、４者全てで扱われております。ここでの目標を比べましたが、古典の作品の特色を感じ取り、読みを深めるという視点から、「三省堂」の設定が良いと感じました。この作品の取扱いをめぐって、「三省堂」では、導入に「月を思う心」という見開きページを設け、月に関わりのある「竹取物語」につないでいきます。また、作品に入る前には、イメージ写真と物語へいざなう文章が示されています。こうした構成になっているのは「三省堂」だけで、読みやイメージを広げるために良いと思いました。
　古典教材については、調査委員会から、「「三省堂」は、折り込みカラーページで絵や写真、年表を示し、言葉だけではイメージしにくい内容をビジュアル化して補完している。」との説明がありましたが、本格的に古典を学ぶ上では必要なことだと思いました。
　「三省堂」の大きな特色に、「読み方を学ぼう」というタイトルで、作品をより深める

ための方法を種類別に示していることがあります。説明文の基本要素、三角ロジック、要約、状況・背景など、各学年６から８程度紹介し、学習に活用できるようにしています。調査委員会の報告に、「「読み方を学ぼう」は、非常に汎用性が高いという学校意見が多く見られた。」とあります。各学年の巻末の折り込みにも簡潔にまとめられ、様々な学習に生かせると思いました。

この「読み方を学ぼう」に関わって、１・２年生の説明文、３年生の評論の最初の教材では、題材をセットにして作品を深く読み取らせようとする構成が見られます。最初に、簡略で、その教材のための書き下ろしの捉えやすい題材を扱わせます。私はこれを「練習教材」と呼んでいます。その後、練習教材で培った学習の仕方を駆使して、典型的な題材としての主教材を読み込むような構造になっています。例えば、１年生の説明文のセット学習では、「ペンギンの防寒服」という練習教材で脚注などを活用して、序論・本論・結論における読みのポイントを説明しています。主教材「鯨の飲み水」では、このような読み方を活用して、読みを深めるという構成になっています。こうした構成は、生徒の読みの力を高めるために大切と思っています。

巻末資料は、１年生から３年生までほぼ同じ内容ですが、「思考の方法」など大事な記載が多く、生徒が常時参照するのに必要な内容と感じました。

以上、「三省堂」を推薦する理由を述べさせていただきました。

○髙橋委員

髙橋です。

国語は、「光村」を選びました。

教材が読みやすく、興味、関心を持って学習できると感じました。教材の下段には、言葉の意味、新しい漢字、「広がる読書」が掲載されてあり、すぐに確認でき、関連する本などの情報も得られます。読書活動については、「本の世界を広げよう」、「読書生活を豊かに」、「読書を楽しむ」などのページでも参考にすることができます。２年生の郷土ゆかりの作家・作品、３年生の古典・近代文学の名作は興味深く、読書活動につながる資料でした。読書によって語彙を増やすことができ、語彙が全てのベースになると考えられるので、とても大切な学習です。

巻頭の詩は、各学年とも明るく、心に残るものでした。学習の見通しを持とうとして、１年間で話すこと・聞くこと、書くこと、読むことに分けて一覧表で示されてあり、どんな力を身に付けるかを見通せるようになっています。

「思考の地図」により、様々な考え方から課題を解決したり、自分の考えを深めたりでき、「声を届ける」では、音読、発表について２人１組になって学習する指導が詳しく示されています。また、「書き留める」では、学習の記録の仕方、「言葉を調べる」では、辞典、百科事典の使い方などを学びます。

文法、漢字、振り返りがあり、まとめの学習ができます。

知識・技能の中には、「語彙を豊かに」があり、伝えたいことを話したり、文字を書いたりするときに、ぴったりの言葉や表現を考える学習があります。

巻末の「時を表す言葉」、「言葉を味わう色の名前」、「言葉を味わう季節の言葉」は、写真付きで言葉の豊かさや美しさを味わいながら興味深く見ることができます。

２年生の「君は「最後の晩餐」を知っているか」の教材は、美術にも生かせると思いました。
以上の理由から、「光村」を推薦します。

○北内委員
北内です。
最初に、全ての教科における、私の推薦に当たっての基本姿勢というものをお話しします。
私は、保護者・ＰＴＡ代表としてこの場におります。ですから、子ども・生徒の保護者・ＰＴＡとして、先生方と区民の方々のご意見を参考にして、大田の子どもたちにとって良いと考えた教科書を推薦しました。
それから、私は専門が数理解析ですので、数学と理科に関しては、専門的な立場からも推薦させていただきました。
また、考える力を養える教科書になっているかどうかを考えました。大学入試まで、答えのある問題しか解かない中で、毎日５分、10分考えるかが大きな差になると私は考えています。社会人になっても考えることをずっと続けて、創造的な仕事をしている方が多いと思いますが、一方、そうでない方々は、仕事を作業のように感じてしまいす。
大田区は、ものづくりのまちですので、教科書において、科学や技術への配慮があるかどうか、それから、課題の選択、段階的な構成になっているか、小学校との連携、図番、配色、ＳＤＧｓ、オリンピック・パラリンピックなどへの対応がどうかを考えました。
それから、写真より図の方が適切な場合があります。これは、野鳥だったり、高原植物だったりを鑑賞する方は分かると思いますが、写真はそのまま 100％表示しますので、案外初学者には難しく、図の方が特徴を捉えてよく分かるということがあります。その点が考慮されているかどうか確認しました。
大田区ゆかりの人、ゆかりの地が紹介されているかも参考にしました。２年前、池上第二小学校開校 90 周年記念行事で大田区長のお話がありました。大田区長は、池上第二小学校出身で、子どもの頃に航空会社の社長がお話に来られたそうです。そのとき、子どもながらに、「こんなに偉い方が出身されているということで、自分も頑張ろう」と思ったというお話をされていました。また、鉄道会社の会長も同校出身ということで来られていました。その方も、毎日毎日、京浜東北線を見ていたというお話されていました。やはり、子どもながらに、ゆかりの人とか、ゆかりの地というものは、ずっと覚えていると思います。
最後は、自学自習です。ウィズコロナの時代に、自分で学習できるかどうかを参考にしました。
その中で、私、国語に関しては、「光村図書」を推薦しました。
理由は、まず、不易流行を押さえた作品の選定、生徒が主体的・対話的に深い学びができる構成になっていること、それから、自学自習でより深い学びができるように段階的に配置されていることです。
他教科との連携もあります。社会や理科、美術、ＳＤＧｓ、道徳との関連性の深い話題を採用しています。

そして、学校意見、区民意見からも多く支持されていました。
１つ例を挙げますと、１年生の「「言葉」を持つ鳥、シジュウカラ」という作品があります。これは、記録文、報告文なのですが、グラフを用いて、客観的に記述されています。それだけではなく、最後に、本の紹介もきちんとされています。そして、考察をして深い学びに進むことができる構成になっています。この題材だけでなくて、ほかの全ての題材、２年生も３年生も同じようになっています。
あと、全てを挙げることはできませんが、ＳＤＧｓへの配慮として、「モアイは語る」という、これは地球の将来を映した題材なので、非常に考えさせられる題材です。
最後に、さらに深い学びができるように、本をいっぱい紹介しています。
以上の理由で、私は「光村図書」を推薦します。

○深澤委員
深澤でございます。
私は、「光村図書」を推薦いたします。
その理由は４つありますが、１つは選書が良いと思いました。読み応えがある、心に残る題材が３つありました。特に心に残り、中学生に読んでもらいたいと思ったのは、「リオの伝説のスピーチ」です。カナダ人の同世代の少女がリオデジャネイロの地球サミットで行ったスピーチです。難しい言葉は使われていませんが、現代社会の問題点を的確に捉えていて、人類の未来を危惧する内容には説得力がありました。
そのほかにも、「エルサルバトルの少女ヘスース」、「紛争地の看護婦」など、困難に直面しながら乗り越えていくときの心情を描いた優れた題材がたくさんあり、精神的にも大きく成長する中学生に読んでもらいたいと思いました。
「不便の価値を見直す」という題材は、効率のみが人の生活を豊かにするものではなく、手間が掛かっても自分で工夫するほど達成感が得られるので、不便は悪いという固定観念にとらわれるべきではないというものです。新型コロナウイルスの影響で、当たり前だったことが当たり前ではない日常が、これから先どこまで続くのか見通しが立っておりません。自粛、制限という生活を経験している中学生にも、不便であっても得られる気付きを得てほしいと思いました。
２つ目は、本の紹介が大変豊富であるという点です。物語の最後に「広がる読書」の欄を設け、関連する本を紹介するだけではなく、各学年において「読書生活を豊かに」、「読書に親しむ」という項目があり、「本の世界を広げよう」では、たくさんの本を紹介しています。
３つ目は、物語や説明文の後に、「見通しをもつ」、「捉える」、「読み深める」、「考えをもつ」、「振り返る」の５段階に課題を構造化しているところです。題材理解を深めるために本旨を捉え、自分の考えを表現するということを、各教材を通して一貫して行っていることが良いと思いました。
４つ目は、他の教科書にも掲載されていた１年生の「竹取物語」ですが、現代訳が古文の横に書いてあるで、古文にまだ慣れていない１年生が文意を捉えやすい点と単語の意味が分かりやすいという点が良いと思いました。
以上の理由から、私は「光村図書」を推薦いたします。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

私は、国語は「光村図書」を推薦いたします。４者とも素晴らしい教材でありますが、その中で「光村」の教材を推薦いたしました。

初めに、個人的に、非常に表紙が良いと思います。３冊の本を並べると絵が１つになり、「海より生まれ」、「大地を駆け回り」、「空へと羽ばたく」、まさに子ども達に成長していってもらいたいという思いが伝わってきます。

内容は、最初の見開きで、目標から振り返りまでの学習過程の全体が見通すことができます。

学習指導要領に書いてあるように、文書と図表から解釈する力や比較検討し評価する力を育てるために、「思考レッスン１」では意見と根拠、「思考レッスン２」では原因と結果について、また「情報整理のレッスン」では情報の整理や図や表を用いて整理することを教えています。

「情報を読み取ろう」は、情報過多の時代において、表やグラフと文章を組み合わせて読み、情報を整理し、信頼できる情報を読み取ることが重要であることを、学年を通して教えています。

特設教材の「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」は、いろいろな分野の本を読むきっかけとなり、「本の世界を広げよう」では、多くの本を紹介しています。読書離れをなくすためには、必要な教材だと考えました。

１年生の初めに、「言葉に出会うために」、「野原はうたう」、「声を届ける」、「書き留める」、「言葉を調べる」、「続けてみよう」は、小学校から中学校へのバトンタッチ、３年生では、高校への橋渡しとなる古典などの教材が載っていて、導入がスムーズに行くのではないかと考えました。

１・２年生の巻末には、小学校６年生で学習した漢字と漢字一覧が載っています。小学校で学習した漢字を確実にするために必要だと考えます。

「語彙を豊かに」では、表現に役立つ文型を一覧で載せています。いずれも、これから先にも役立つものと思われ、大事に学習してほしいと思いました。

また、教科書の中には２次元バーコードが載っております。２次元バーコードを読み取ることで、教科書の内容に連動したコンテンツを見ることができます。学習した内容を広げるとき、あるいは自分で学習するときの補助教材として大変役に立つと考えます。

ＳＤＧｓについても触れています。国連では、持続的可能な開発目標を 17 の目標として定め、各国が課題解決に取り組んでおります。昨年、日本の到達率は、156 か国中 15 位でした。達成が難しいとされている気候変動のことを考える、あるいは陸の豊かさを守ることを考えたときに、「クマゼミ増加の原因を探る」、また、海の豊かさを守ることや作る責任・使う責任について考えるとき、「プラスチックごみと海洋汚染」などの作品で、どうしたらいいだろうか話し合い、考えることに結び付けることができると考えています。

経験豊かな先生方の指導に期待をしています。

以上より「光村」を推薦いたします。

○教育長
　それでは、私は、国語につきましては、「光村」が良いと思いました。
　他の委員の方もおっしゃっていましたが、「光村」は、国語教育の大切な出会いである、言葉の教育という視点で一日の長があると思いました。
　２年生の教科書には、新聞に「折々のうた」を掲載していた、詩人の大岡信さんの「言葉の力」という作品が載っています。
　京都嵯峨の染物のお話ですが、染物の見事なピンクの色は、桜の幹の皮を煮詰めて出される色で、人間の言葉も人間全体の人格からにじみ出てくるもので、そういう心を持って言葉の力を深めていくことが大切であるということが書かれています。「光村」は、言葉の力を高め、言葉の教育を通して、人間ならではの感性や思考を育てているということで、一日の長があると思います。
　また、課題解決的な単元学習の構成という点でも良さがあると思いました。「モアイは語る」や「クマゼミ増加の原因を探る」など、生徒が興味を持って論説文や報告文を学習した後に、その論説文や報告文で学んだ意見の述べ方を生かして、自分自身が論説文や報告文を書いたり、話し合ったりする表現活動がございます。最後には、学んだことを生かして、表現することに結びつけていく、そのような単元の構成は、生徒たちの意欲につながり、生徒たちの主体的、対話的で深い学びを実現する上で有効になると思いました。
　中学生のときにたくさん本を読んだ人は、一生読書すると言われています。「光村」には、俳優の米倉斉加年さんの「大人になれなかった弟たち」という教材など、中学生にぜひ読んでおきたい教材が多いように思います。読書人を育てるという意味からも、「光村」が良いのではないかと思いました。
　それでは、審議のまとめを行いたいというふうに思います。
　審議では、「三省堂」を評価する意見もございましたが、「光村」を評価する意見が多かったようでございます。
　国語については、「光村」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長
　それでは、国語につきましては、「光村」といたします。
　続いて、書写について審議いたします。書写の発行者は４者あります。
　委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○三留委員
　書写について、考えを述べます。
　書写も、自ら課題を見付けて、活動しながら授業の習熟を図るという構成が目立つようになりました。４者とも、題材ごとに目標又は課題が示されています。
　４者の中で、「東書」と「光村」で迷いましたが、「光村」を推薦することといたしま

した。「光村」も「東書」も各ページ「書写への取りかかりの活動」、「書いて確かめる活動」、「学習したことを生かす活動」というような構成になっています。「光村」は、学習の進め方として「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」の流れを設定しています。これからの書写については、教え込むだけではなく、子どもの気付きや考えを生かして進めることも大切になると思っています。

また、「光村」には、冒頭に「学習のはじめに」というコーナーがあり、姿勢、筆記具の持ち方のほか、小学校の学習の振り返りも踏まえて、字形の整え方がありますが、中学校の書写の初期指導に当たっては必要なことと思いました。

「光村」は、「確かめよう」で、写真図版を用いて、正しい書き方について説明しています。筆先をどう動かせば良いかがよく分かります。また、各手本の脇には、小さい文字で筆先の場所を示し、手本と同じ字の朱書きがあります。これも生徒が書くときの参考になります。上下見開きで、半紙原寸大の手本ページがあるのもよいと思いました。

書写はＡＢ判とＢ５判の２種類があります。書写の教科書は、毛筆の手本としても使うことが多く、ＡＢ判は、生徒個人の机では使いにくくなるのではないかという意見があります。私もそのように感じます。Ｂ５判は、「光村」を入れて２者、ＡＢ判も２者となっています。

また、「光村」の大きな特徴は、硬筆教材を別冊にしていることです。「光村」は、教職員の支持が多くありましたが、別冊にすることで、使いやすいという指摘もありました。

コラムや「やってみよう」というページも、関連する内容をうまく盛り込み、興味を引きます。各手本ページにある２次元バーコードから、手本を実際に書いている場面を見ることができ、生徒にとって参考になります。

以上の理由から、書写は「光村」を推薦いたします。

〇髙橋委員

髙橋です。

書写は、「光村」を選びました。

見やすく、シンプルにまとまっています。

学習の初めに、姿勢、筆記具の持ち方、基礎を示し、小学校の復習として確認ができます。硬筆教材を別冊にした「書写ブック」には、「読みやすく速く書くための行書」、「名文を書いてみよう」、「字形の整え方」、「日常に役立つ書式」があり、日常生活にも活用できる学習になっています。

書き方のポイントは、「目標」があり、「学習の窓」では、文字の整え方の解説、「学習を振り返る」、「ワンポイント」では、墨のすり方などのミニ知識が色分けしながら分かりやすく示されています。

点画の種類、筆使いなどは、写真による図解により、丁寧で見やすくなっています。ポイントを十分学習した後に見本があり、取り組みやすいと思いました。

「学校生活」は、「行書を活用しよう」、「目標を書こう」など、学んだことを活用するページがあり、「日常に役立つ書式」にも、手紙の書き方、封筒の書き方、はがき、入学願書、送り状、原稿用紙の書き方が掲載されていて、将来にわたって役立つ学習です。

コラムでは、「文字の歴史を探る」、「ユニバーサルデザイン書体って何だろう」があり、ユニバーサルデザイン書体には、見やすさ、読みやすさにこだわった活字の書体について掲載されています。

「中学生のための漢字字典」には、漢字の成り立ちも示されていて、興味深いものでした。

以上の点から、「光村」を推薦します。

○北内委員

北内です。

書写に関しては、「光村図書」を推薦します。

理由は、内容の充実と、毛筆で習ったことを硬筆で練習できる「書写ブック」が別冊となっているため、先生が生徒の進捗を把握しやすいこと、自学自習のためのデジタル教材が充実していること、それから、机の大きさからＢ５判が使いやすいことです。

毛筆はもちろんのことですが、はがきや手紙の書き方、入学願書、送り状の書き方など、日常で書くこと、役立つことがきちんとまとめられています。先程もありましたが、ユニバーサルデザイン書体について詳しく説明があります。生徒がデザインに興味を持つと思いました。

また、「私の好きな言葉」ということで、卓球選手の伊藤選手や漫画家の小山さんが自分な好きな言葉を書かれています。伊藤選手は「自分らしく楽しむ」で、小山さんは「本気の失敗には価値がある」という、子どもたちに響く言葉ではないかと思います。

さらに、原寸大の見本があります。

以上の点から、「光村図書」を推薦します。

○深澤委員

深澤でございます。

私は、「光村図書」を推薦いたします。

私は、国語の図書として「光村図書」を推薦しておりましたので、書写の方も教科書と同じ会社のものが良いというのが推薦する一番の理由です。

２つ目は、学校意見で硬筆ノートが別冊になっているものが良いという意見が多数あり、現場の先生が使いやすいと思われるものが良いと思いましたし、硬筆で行書の書き方を練習して覚えると、毛筆においても筆を運びやすくなると思いました。

３つ目は、半紙と同じ原寸大の見本があること、デジタルコンテンツで行書の筆の運び方を示した動画のお手本が充実していることも大変良いと思いました。

以上の理由から、「光村図書」を推薦します。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

書写は、「教育出版」を推薦します。

書写を通して学ぶことについて、「自ら考え、文字を効果的に使う力を学ぼう」を大きな木を用いて明確にしていました。

主体的・対話的で深い学びについては、学習の進め方の中の「考えよう」に筆の動きの分かる写真図版を用い、ポイントが分かりやすく解説されていました。深い学びは、毛筆で学習した行書の書き方を硬筆に変化させるための教材が豊富に載っています。また、小学校で習った毛筆の筆使いから、行書の基本的な書き方を理解し、行書ならではの筆使いを丁寧に説明しています。

１年生の習う「筆使い　基本点画」では、小学校で習った基本点画、筆圧、筆先の動きなどを復習できるようになっています。

「和」という字で楷書と行書の違いを比較し、特に行書では、筆脈で分かりやすく説明されていました。また、手を穂先に見立てて書くことで、筆の動きがよく分かるようになっています。

チェックボックスがあり、例えば楷書の点画の筆使いと字の形を理解して書けたかという質問に対して、できた場合には丸、もう少しの場合には三角で示し、自ら確認ができるようになっています。

また、単元名と目標を半紙の外に出すことにより、字のバランス、周囲の余白などが分かり学習しやすいと思いました。

「学びリンク」では、手本を真上から見る動画や穂先の動きが分かる動画を見ることで、自主的な学習にも対応できると思いました。

「書式の教室」では、レポートの書き方、手紙、ポスター、案内文、報告文など、今後も活用できる例が豊富に掲載されています。

そのほか、「学習を生かして書く」や「学習内容を効果的にノートに書こう」では、効果的にまとめることで、理解しやすく覚えやすいノートを作るための例が掲載されていて、学力向上につながると考えました。

以上から、私は、「教出」を推薦いたします。

〇教育長

それでは、私は、「光村」が良いと思いました。

書写は、１年生で行書を学習いたします。小学校で学んだ楷書の学習では、払い、はね、とめなど一画一画筆の運びを学びました。中学校での行書の学習では、点画の連続や省略など、一連の連続した筆の運び方を学ぶことが大切だと思います。

「光村」では、筆が半紙に接していないときの動きが点線で示されていたり、また穂先がどこを通るか筆の動きが墨の濃淡で表されていたりして、行書を学ぶのに分かりやすい工夫がされていると思いました。

また、動画による教材が充実している点も、生徒が分かりやすく行書を学ぶことに役立つと思います。

それから、書写教科書は、お手本にもなりますが、半紙の大きさと同じお手本のページもあり、生徒にとって学びやすいと思います。書き初めの手本も折り込みで工夫されていまして、比較的文字の画数も少なく、上手に書いてみたいというような気持ちが起きるのではないかと思いました。

書写の指導につきましては、「光村」は情報量がそれほど多過ぎることがなく、分かりやすく焦点を絞った指導ができるということで、使いやすいのではないかと思いました。

以上でございます。
それでは、書写の審議のまとめをしたいと思います。
審議では、「教出」を評価する意見もございましたが、「光村」を評価する意見が多かったようでございます。
書写につきましては、「光村」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長
それでは、書写については、「光村」といたします。
続きまして、社会（地理）について審議いたします。社会（地理）につきましては、発行者は４者あります。
委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○三留委員
地理につきましては、「帝国」を推薦いたします。
各者の単元解説を見ますと、どの者も「世界と日本の地域構成」、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」、「地域の在り方」の順になっています。「帝国」は、「地理的分野の全体像を見通そう」というページを設けて、歴史的分野や公民的分野との関連を含め、４つの内容に関わる２年間を通した学びについて、構造的な図にまとめています。
また、主体的な学びを意識して、章、節のまとまりを重視しています。冒頭に章や節の問いがあり、章末または節末には、学びの振り返りをしています。
各ページの最初にある導入資料は、生徒の関心を引きそうなものが多く、「学習課題」に的確につながっています。問いの解決につながる写真や統計なども豊富です。写真は、多くが裁ち切りで掲載しているため、点数の割に小ささを感じません。本文も分かりやすく丁寧に記述されていると思います。
「世界の諸地域」、「日本の諸地域」の冒頭は、「写真で眺める」というタイトルの印象的な写真から入っていますが、地域に関わりのある引き付けられる写真がダイナミックに掲載されています。「日本の諸地域」の学習のとびらには、イラストと地図が載せられ、その地方の学びの概観ができます。学習の導入における、資料及び構成が優れていると感じました。
また、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」では、各州・各地方の学習において、自然環境の学習から始まり、地域を見る視点を、ある程度そろえて記述してあるため、それぞれの州・地域の特色が捉えやすいと考えました。
「帝国」では、各見開きページの右下に「確認しよう」という１時間の学習をまとめるための囲みがありますが、ここで本文や図版などを使った内容の確認をします。また、様々なページに「技能をみがく」という囲みがあり、地理の学習の基本的技能について解説をしています。どちらも、よくできており、地理学習における基本的な知識や技能の定着につながると思いました。

「確認しよう」の後には、「説明しよう」があります。発展的な問いかけに対して、学んだことを活用して、自分なりに説明することは、思考力、判断力、表現力の育成にもつながります。

「帝国」では、「技能をみがく」以外にも、いくつかのコラムがあります。「地理プラス」は、学習内容に関連した興味深い話材が用意されていました。「未来に向けて」は、環境、防災、共生のテーマで、持続可能な社会について、参考になる取組が紹介されていました。どちらも、生徒に知ってもらいたい内容が多くありました。

今回の学習指導要領の改定で特徴的なことは、各教科で見方・考え方を重視しているところです。社会科の中で地理的分野については、前回の学習指導要領解説等においても、地理的な見方・考え方は、学習を深めるために必要なこととして取り上げられていました。

見方・考え方につきましては、巻頭に「地理的な見方・考え方について」のページを設け、「位置や分布」、「人と自然環境」などについて、キャラクターの会話と通して、具体的に説明しています。章や節の学習を振り返るページでは、「地理的な見方・考え方を働かせて説明しよう」という学習のまとめが設定されています。ウェビング、地図への書き込み、図や表の作成など、様々な活動が用意され、生徒の思考力、判断力、表現力を高める上で、優れた学習方法を示していると感じました。

以上、地理は内容、全体構成の良さから、「帝国」を推薦することといたしました。

○髙橋委員

髙橋です。

地理は「帝国」を選びました。写真がきれいで、資料も分かりやすくまとまっております。

巻頭にＳＤＧｓの取組「地域のよりよい発展を目指して」の特集を配置し、主体的な学びのために、学習の見通しを持つことができ、対話的な学びのために、「コラム・特設ページ」があり、深い学びのためには、「特設ページ」により、地理的な見方・考え方を学べるようになっています。

基本的な技能を身に付けるため、「技能をみがく」では、基本的な技能を身に付ける23のテーマが示され、学習に生かすことができるようになっています。

「探してみよう」では、小学校で学習した内容を見付ける活動を取り入れ、興味・関心を高める工夫があります。

「地理プラス」には、学習内容に関連した事例が37テーマ掲載されています。

小学校、歴史、公民との関連内容を見開き下部に示すことでも、学習しやすくなっています。

章、節の「学習を振り返ろう」があり、学んだことを確認することができます。

「地域の在り方を考える」は、災害からの復興と生活の場の再生が写真、イラストで示され、参考になります。

以上の点から、「帝国」を推薦します。

○北内委員

北内です。
地理に関しては、「帝国書院」を推薦します。
地理は、科学、サイエンスです。例えば、海流や暖流・寒流、アリューシャン列島、千島列島など、科学的に説明できます。そのときに、写真と図版の適切な選択が必要で、図の方が特徴を捉えるやすいことがあると思います。図が大きくてカラフルで分かりやすいです。　地球儀の取扱い方も分かりやすいです。
また、日本は島国なので、国境の特徴の説明がきちんとされています。沖ノ鳥島のＥＥＺ、排他的経済水域やザンビアとジンバブエの国境の説明を、図を使って分かりやすく説明しています。
ＳＤＧｓも見開きで説明しています。
サッカーフランス代表選手の写真を使って詳しく説明しているので、生徒に分かりやすいと思いました。
それから、考えるページがあります。各単元復習を兼ねてまとめテストあるので、そこでちょっと考える課題があり、重要だと思いました。
以上の理由から、「帝国書院」を推薦しました。

○深澤委員
深澤です。
私は、「帝国書院」を推薦いたします。その理由は４つあります。
１つ目は、「帝国書院」は、巻頭見開きでＳＤＧｓを掲げ、各地域の特色においても、ＳＤＧｓの単元を随所に取り入れているということです。各節の末尾では、「地域の在り方を考える」として、ＳＤＧｓの観点から、この地域において行われている取組を紹介する点も良いと思いました。
学校意見でも、この点を評価して「帝国書院」に肯定意見を出しているものが多く見られました。
２つ目は、随所に地理的技能を磨くためのコーナーが設けられる点です。地図帳の索引の引き方、時差の調べ方、雨温図の読み取り方などについては、２次元バーコードでの説明も付いていて、大変分かりやすいと思いました。
３つ目は、章の学習の振り返りが知識と思考力・判断力・表現力に分けられているため、知識の定着の確かめと学んだことを生かして表現するという点で、復習しやすいと考えました。
４つ目は、歴史的な変遷、各地域との差を視覚的に示しているため、変化や違いが分かりやすいという点です。例えば、北方領土周辺の国境の移り変わりにおいて、日露通好条約からサンフランシスコ平和条約までの変遷を、日本に帰属していた時は緑、ロシアに帰属していたときは紫、帰属が未定の場合は白で表しています。
また、現在の都道府県と明治元年当時における国名と国境を並列して示しているので、例えば、薩摩・大隅は現在の鹿児島県にあたるということが一目で分かる、そういう工夫がされています。
以上の理由から、私は、地理については「帝国書院」を推薦します。

○弘瀬委員
　弘瀬でございます。
　社会、地理的分野に関しましては、「帝国書院」を推薦いたします。
　学習内容は、「導入」、「学習課題」、「本文」、「確認しよう」、「説明しよう」という、統一したレイアウトになっています。
　また、学習している分野が分かるように、章ごとに統一された色を使い、右端にインデックスが設けられていて、見やすく、使いやすいと思いました。
　本文の左ページの上段には導入のための資料が、右ページの上段には図、写真、コラムなどが載っていて、本文を読み解くための分かりやすい資料となっています。ところどころに「技能をみがく」のコーナーがあり、地理的な見方・考え方をすることにより、必要な基礎的な技能を習得できるようになっているので、学習意欲を高めるためには効果的であると考えます。コラム「未来に向けて」は、ＳＤＧｓについて、どのように考えていくか、発展的に物事を考えるための指標となっていると考えます。
　２次元バーコードで学習内容に関する動画が閲覧でき、自宅学習を行う場合、有効であると考えます。
　第２章の「日本の地域的特色」の中に、日本の自然災害について載っています。自分自身が災害に対してどのように準備し、災害が起こったときにどのように行動するかを話し合うことは、重要であると考えます。ここ数年、河川の氾濫が多く、被害が出ています。152 ページ「技能をみがく」の 19 で「ハザードマップの読み方」、153 ページの「技能をみがく」20 で「防災情報の入手の仕方」があり、ハザードマップの使い方や災害の避難方法、避難場所の確認など、実践的に学習することで、防災の意識が高まると考えます。
　全体的に写真や資料が大変豊富に掲載されていると思います。
　最後に、「帝国書院」の教科書には、羽田空港の写真や大田市場の写真などが取り上げられていて、非常に親しみやすいと思いました。
　以上より、「帝国書院」を推薦いたします。

○教育長
　それでは、私も地理は「帝国」が良いと思いました。
　「帝国」は、巻頭に地理的なものの見方・考え方について明確に示しています。位置や分布、気候や自然との関わりなど、地理の学習を進めていく上で大切なことがまとめられ、その視点を生かした内容になっていて、分かりやすいと思いました。
　「帝国」は、地図に定評があり、地理の学習においても、地図を生かしたものとなっていると感じました。例えば、ユーラシア大陸がヨーロッパ州とアジア州に分かれると説明していますが、ウラル山脈を境にすると書かれてございました。他の者のものを見ると、ウラル山脈を境にすることがあまり明確に示されていないように感じましたが、生徒にとっては、ヨーロッパとアジアの境がどこで分かれるのか知りたいという興味もあると思います。このような位置的なことの明確さは、「帝国」の良さだと考えます。
　また、太平洋と大西洋という名称について、「太平洋は航海したときに迷うことがなく、穏やかな太平な海だったから」など、海洋の命名の由来についても触れられており、地理的な興味を引くものでした。

さらに、「帝国」は、写真資料が大変豊富で、地球上の各地の自然、生活、産業、文化などの多様な姿に、生徒たちは興味を引かれるものが多いと思います。ＳＤＧｓなどの将来の地球環境の課題も重視されていて、私も地理につきましては、「帝国」が良いと思いました。

それでは、審議のまとめをいたしたいと思います。

社会（地理）につきましては、「帝国」が最も評価が高かったとまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長

ありがとうございます。それでは、社会（地理）につきましては、「帝国」といたします。

続きまして、社会（歴史）について審議いたします。社会（歴史）の発行者は、７者あります。

委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○三留委員

歴史につきましては、「教出」を推薦いたします。

「教出」の特徴の１つとして、各ページのタイトルに、学習内容につながる興味を引くような言葉が使われているということがあります。生徒の疑問や知的好奇心と結びつき、意欲的な学習につながります。時代スケールは、ほとんどの者で取り入れていますが、タイトルの上部にあるのは「教出」だけで、タイトルとすぐ対比することができ、この部分にあるのが効果的だと思いました。

どの者も、１時間１課題の学習の徹底を図っていますが、「教出」の「学習課題」は、１時間ごとの学習で、何を追究しているのか分かりやすく、生徒が見通しを持ちやすいと感じました。さらに、右下の「確認」と「表現」の内容が囲みで示されています。「確認」は、学習内容を整理するポイントがきちっと示されていると感じました。「表現」は、歴史的事象の特色について、自分なりに説明する内容になっています。説明のための手立て示していますが、表現力や深い学びに結びつくものが多いと感じました。

本文も、学習指導要領の内容に即して、平易に表記されており、生徒にとって時代の特色を捉えやすいと感じました。資料も精選して提示して、キャラクターによるガイドや読み解きのヒントなどが上手に入れられています。いくつかのページにある資料活用の仕方を示した「歴史の技」、問いを考えながら資料の読み取りを進める「読み解こう」の内容も良いと思いました。

時代の変革期で、生徒には捉えにくいと言われている江戸時代末期の扱いについて、各者の比較をしました。「教出」は、江戸幕府の滅亡・明治維新までの流れについて、「開国の影響」、「安政の大獄」、「攘夷運動の高まり」、「倒幕への動き」、「社会不安と世直しへの願い」、「幕府の滅亡と新政府の誕生」と分かりやすく文章が展開されていると感じました。また、この教材に関する問いは、他者が「江戸幕府は、どのように倒れて

いったのか。」、「江戸幕府が滅ぶまでどのような動きがあったのでしょう。」というようなものが多くあったのに対し、「教出」は、「江戸幕府を滅ぼしたのは、どのような力があったのでしょう。」になっています。この問いの方が、江戸幕府滅亡に至る理由を深く、多面的に考えることができ、後の生徒同士の話合いにも結び付きます。

中心資料は、他者に下関砲台の写真が多くある中、「江戸の打ちこわし」、「ええじゃないか」の絵となっています。タイトルが、「御政事売り切れ申し候・世直しと江戸幕府の滅亡」となっており、興味を引きます。

補足になりますが、大田区にゆかりの深い勝海舟と西郷隆盛の会談については、絵と解説により、５者が掲載しています。解説で、無抵抗で開城する代わりに、江戸の町や人々が新政府軍の総攻撃による戦火から守られたことを記しているのは３者で、「教出」もその１つです。大田区・東京都で学ぶ生徒にとって、会談の意義を学ぶことは、大切なことと思っています。

また、今回の学習指導要領総則では、指導計画作成等に当たっての配慮事項において、単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加えることが述べられています。「教出」は、章のまとまりを大切にした構成が感じられます。章の学習の最初に「学習を始めよう」があり、章の学習内容に関わる事象等を紹介して、章の学習に興味を抱かせ、見通しを持たせるようにしています。また、章の終わりには、「学習のまとめと表現」のページがあり、年表や地図を使ってまとめる作業をすることによって、章全体の学習の振り返りや、歴史概念の定着につながると感じました。

これからの社会科学習では、社会的な意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を身に付けさせることが重要です。「教出」には、起点を変えて学習内容を考えることのできる「歴史の窓」というコラムや、「歴史を探ろう」という、関連した発展的内容を扱うページがあります。これらの記載は、生徒の興味を引き、多面的・多角的な考察にもつながると思いました。「リサイクル都市・江戸の町人」 や「後藤新平と杉原千畝」など、読ませたいものが多くありました。

学習指導要領「歴史的分野」内容Ａの（２）では、地域の歴史について調べたり、まとめたりする技能を身に付けることとしています。「教出」は、「身近な地域の歴史を調べよう」の単元で、テーマ設定、情報収集、調査、整理、考察、振り返りまでの過程を挙げて、地域の調査活動の紹介をしています。また、６つの章の特設ページでも、地域の調査活動を紹介しています。地域の歴史の扱いがしっかりしているのも「教出」の特色です。

以上、総合して歴史は、「教出」が良いと思いました。

○髙橋委員

髙橋です。

歴史は「東書」を選びました。

写真、資料が充実していて、レイアウトが良く、本文が読みやすく、分かりやすくなっています。

「学習課題」があり、テーマごとに説明文があり、重要な点は太字で記されています。

小学校との学習の接続を図るために、小学校の学習内容を中心に構成した年表を掲載

し、振り返りから進めて、確認できるようになっています。
第１章の「歴史のとびら」は、イラストで歴史の流れが分かりやすくまとまっています。
「探究課題」として、イラストをコメントで学習することの確認ができます。
「資料から発見」は、絵巻物、屏風絵、浮世絵、錦絵から話合いの活動を通じて、資料を読み取ったり、考えたりすることで、その時代への理解を深める学習ができます。
「みんなでチャレンジ」は、グループで協力しながら取り組む対話的な活動が示され、「もっと歴史」は、学習内容をもっと深めたり、広げたり、違う視点で学習ができます。
「地域の歴史を調べよう」は、身近な地域の歴史について調査する学習が示され、地域を知るきっかけになります。
「スキルアップ」で、歴史の学習を進める上で、基礎的・基本的な技能を身に付けさせる工夫をしています。
歴史学習の最後に、歴史のまとめとして、「歴史に学び、未来へと生かそう」とあり、持続可能な社会に向けた自分の考えをまとめる活動があります。
巻末の資料は、年表、歴史の中の植物、各地の主な史跡、旧国名地図があり、参考になります。
以上の点から、「東書」を推薦します。

○北内委員
北内です。
歴史に関しては、「東京書籍」を推薦します。
まず、深い学びができるように構成されています。それから、ＳＤＧｓとオリンピック・パラリンピック、東京 2020 に関する記載があります。
適切な写真の選択と、大判で非常に分かりやすいと感じました。それから、今と昔の様子を載せて、比較できるようにしてあります。
１つ、重要だと思ったのは、北極海の正距包囲図法を載せていることです。これは、昔の冷戦や昨今の地球環境問題、温暖化、北極海航路、資源争奪戦がなぜ起こるのかを示唆している地図だと思います。
そして、別冊教材が非常に充実していて、自学自習でそういうことができます。
先程ありましたが、勝海舟と西郷隆盛の無血開城のお話や大田区田園調布をつくった渋沢栄一さんのお話が載っているのも良いと思いました。
具体的なところでは、例えば、藤原京、平城京、平安京の町並みを大判で比較することができ、理解を深めることができるとおもいました。それから、絵巻物、浮世絵、錦絵というのを、それぞれの時代に大判で載せていて、深い学びができるように配慮されていると感じました。
以上から、私は歴史に関しては、「東京書籍」を推薦しました。

○深澤委員
深澤でございます。
私は、歴史については「東京書籍」を推薦します。その理由は４つあります。

１つ目は、「東書」は世界的な視野で日本の歴史を学ぶ視点を持っていると考える点です。

各ページの頭に、紀元前から現在までの日本史の年表があり、どの時代を今勉強しているかが色付けから一目瞭然で分かります。他社の教科書でも、同様の工夫がされていましたが、「東京書籍」の年表は色彩鮮やかで、大変分かりやすいと思いました。今学習しているのがどの時代の出来事かを把握することは、世界史との関連でとても大切だと思います。

また、単元ごとに「基礎・基本のまとめ」と当該単元の年表が掲載されていますが、政治、経済・社会・文化、東アジア、欧米の４つの視点から対照できるようになっているので、世界的な視野で日本のその時代を位置づけることができるのも良いと思いました。

２つ目は、知識を増やすということでなく、なぜそうなったかという視点を大切にして説明しているという点です。

例えば、ルネサンスの台頭ですが、キリスト教の影響を強く受けていたヨーロッパにおいて、ルネッサンスが新しい風潮として生まれたことの説明として、14 世紀にヨーロッパでペストが大流行して、人口の３分の１が失われてしまったために、人々が命や生きることの意味について新しい考えを持ち始め、生身の人間を主題とする文化が台頭したと述べられています。

教科書を読み比べていくと、「東京書籍」は、歴史的なつながりをベースに構成しているので、だからこうなったのだ、というように、歴史がなぜその流れで次のステージに進んだのかという点をつかみやすいと思いました。

３つ目は、各ページに「チェック」と「トライ」があることです。

「チェック」はそのページで学んだことの知識を問い、「トライ」は説明するというもので、知識を前提に思考し表現するという過程を自分で簡単に行えると思いました。

４つ目は、写真や説明が多いという点です。

例えば、鎌倉時代の新しい仏教、応仁の乱における対立関係、大西洋における三角貿易などは、言葉だけでは覚えにくかったり、理解しにかったりする部分もありますが、視覚的に分かるよう工夫がされています。

以上の理由から、私は、歴史については「東京書籍」を推薦します。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

歴史分野に関しましては、私は「東京書籍」を推薦いたします。

第１章「歴史へのとびら」は、漫画的なイラストで歴史の流れが学びやすく、導入しやすいと思いました。

導入部分に「探究課題」を立て、「学習課題」と「チェック＆トライ」で展開し、「探究のステップ」を設けて「探究課題」の解決を導くための補助教材として、最後のまとめに到達できるようになっています。

章を通して、課題をまとめる学習ができるように工夫されていると感じました。

「小学校マーク」で、小学校の教科書で習ったこと、あるいは小学校の社会で習ったことを振り返ることができるようになり、着実に知識が定着するようになっていると考えま

す。
　ページの下に年表が載っていて、常に歴史の流れが分かるように配慮されていると思いました。
　学習の流れをイメージさせるアイコンやキャラクター、思考を整理するためのくらげチャートやＸチャート、ピラミッドストラクチャなど、思考力、判断力、表現力を高めるための多彩なツールが示されていて、物事を整理するために役立つと考えます。
　そのほか、２次元バーコードや分野関連マーク、Ｄマークなど、横のつながりを重視しながら学習を広げることは大事なことだと思います。
　第４章３節の「新しい学問と化政文化」のところに、喜多川歌麿の美人画、あるいは葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」の風景画が引用されています。喜多川歌麿や葛飾北斎の浮世絵など、美術の本と対比させるのも面白いのではないかと思いました。
　以上より、「東京書籍」を推薦します。

○教育長
　それでは、私は、歴史は「東書」が良いと思いました。
　学習指導要領には、歴史の学習の狙いとして、歴史的な見方・考え方を学ばせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、社会の形成者に必要な資質・能力を育成するとあります。
　私は、大田区の教育ビジョンに掲げた、子どもたちが未来を創り出していく力を育てるためにも、現在の社会が築かれるまでの人間の努力や苦労、そして知恵を歴史から学ぶことが大切だと思います。その意味で、歴史の学習を過去の史実を覚える知識注入型の学習から、未来社会の課題解決につながるような課題解決型の学習にしていくことが大切だと思っております。その問題解決・課題解決の学習という点で、「東書」の教科書には、一日の長があるように思います。
　課題解決学習を進めるためには、まず課題の設定が大切でございます。また、その課題が分かりやすいこと、生徒の意欲的な探究に結びつくものであることが大切だと思います。その点で、微妙な違いかもしれませんが、「東書」の「学習課題」は、よく練られていると思っております。
　「新政府の成立」では、「明治維新によって社会がどのように変化していったのでしょうか。」という課題、また「明治維新の三大改革」のところでは、「明治維新の三大改革は、人々の生活にどのような変化をもたらしたのでしょうか。」という課題が、はっきりと追究しやすいものになっていると感じました。
　また、課題解決学習を進めていく上で、「東書」が良いと思った点は、精選された資料が大変大きく載っているところです。資料をしっかりと読み取り、考えることで、課題についての考えを深めたり、広めたりできるように工夫されていると思いました。例えば、先ほどの小学校の授業風景、三大改革の１つでございますが、学制の公布というところで、小学校の授業風景がございます。非常に大きくて、算術の掛軸であることとか、教師の服装、子どもたちの服装、様子、そういうところをしっかり読み取ることで、学制の趣旨であるとか様々なことを読み取ることができます。そのように、課題解決学習を進めていく上で、大切な資料が非常に充実しているというところがあると思います。

さらに、「東書」は、「地域の歴史を調べよう」という、地域学習の手引きが充実していると思いました。私も大田区に来て、昔、東海道だった通りを訪れたときに、ここを大名行列が通ったのかという、時代のひと時の生活を思い浮かべて、感慨を覚えたことがございます。中学生が自分たちの街の歴史に触れること、そういう学習を大切にしてほしいと思っております。

以上、歴史につきまして、審議のまとめに入りたいと思います。

審議では、「教出」を評価する意見もございましたが、「東書」を評価する意見が多かったと思います。

社会（歴史）につきましては、「東書」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長

それでは、社会（歴史）については、「東書」といたします。

では、ここで５分間、３時 28 分まで休憩とさせていただきたいと思います。

（　休　憩　）

○教育長

それでは、再開いたします。

社会（公民）について審議します。社会（公民）の発行者は、７者あります。

委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○三留委員

公民は、「東書」を推薦いたします。

どの者も、教科書の使い方のページを設けて、公民の学び方を大切にしています。また、学習指導要領に示されている、単元や題材などのまとまりを見通すことを意識した教科書が多くなってきたと感じます。「東書」もその１つです。

「東書」は、各章の初めに、見開きで章に関する導入ページを設け、導入の活動をしています。政治単元では、「誰を市長に選ぶ」、経済単元では、「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」など、生徒にとって興味深い活動を用意しています。それぞれの章のまとめでは、「Ｓ市の市長になって条例を作ろう」、「コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう」というように、生徒の社会参画を促すような活動を取り入れています。

導入やまとめの活動では、Ｙチャート、ウェビング、マトリクス、くらげチャートなどの思考ツールを活用して、考えさせるようにしています。それも「東書」の特徴です。

また、節、いわゆる小単元にも、「探究ステップ」が作られており、問いについて自己の主張を交えて学べるようになっています。こうした小単元サイクルの学習は、今後の社会科の学習では、大切になると思っています。

公民教科書では、どの教科書も、持続可能な社会について触れています。今後の社会を

生きる子どもたちには、持続可能という視点で現世代、未来世代の生存・幸福を目指す活動が大切だからだと思います。

各者、扱いに違いがありますが、「東書」は冒頭と最後の見開きページ両方で、「持続可能な社会の実現に向けて」というタイトルで、写真と解説により記述しています。その中で、「公民では、持続可能な社会を実現するためにはどうしたらよいか、自分たちに何ができるか、というようなことを考え、学習していく」と投げかけています。最初の「現代社会と私たち」の章の最初のページに、「持続可能な社会の実現に向けて」のタイトルで、学習を組んでいるのも「東書」だけです。

また、「地球環境と私たち」の単元では、導入の活動に「ＳＤＧｓから地球規模の課題についてとらえよう」があります。終章には、「よりよい社会を目指して」とありますが、持続可能な社会の形成者として、資質を高める取組が示されています。一貫して、持続可能な社会という視点で記述されているのも、「東書」の特色です。

公民科で言われる、現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みの１つである、効率と公正について、各者の比較をいたしました。多くの者が学校内のルール作りを例に挙げて、子どもの活動を促しています。「東書」は、まず、「全員が納得するために」という見出し語で、全員納得の原則を述べています。この後、効率と公正について、分かりやすく本文で述べています。

側注にある図も分かりやすく、「考える」のコーナーでは、社会的な課題を発展的に考えさせられるようになっています。

「東書」は、この後、「決まりの評価と見直し」についても、見開きで学習するようになっています。「状況の変化により、決まりは変更できること」、「決まりを評価する観点」がポイントを押さえて述べられています。最後に、共生社会の実現という考え方に結び付けています。一連の流れがよく、大事な点を押さえていると思いました。

共生社会の実現に関わって、「東書」は、様々な人権問題について、多くの記述があるのも特色です。例えば、「みんなでチャレンジ」という、グループで協力しながら取り組む対話的な活動を促すコーナーがあります。その中に、憲法の平等権に関わって、「インクルージョンについて考えよう」というページがあります。イラストから、バリアフリーになっているところを探させ、インクルーシブ社会を作るためにどうしたらよいか話し合わせるようにしています。さらに、校内や学校周辺における改善点を指摘させるという活動も示唆しています。こうした学習も重要と考えました。

ほかにも、コラムなどで、ハンセン病と人権、先住民族としてのアイヌ民族、障害者の働く機会の保証、性の多様性の尊重等多くの人権課題を取り上げているのも大切なことと思いました。

以上が、「東書」を推薦する理由となります。

○高橋委員

高橋です。

公民は、「東書」を選びました。

資料、写真が充実し、レイアウトが読みやすく分かりやすいです。挿絵、写真、グラフは、掲載部分の背景に色を付け、本文と資料部分の区別をしています。

導入の活動で「探究課題」を設定し、気付いたことを出し合う活動をし、課題をつかむ、追求する、解決する学習になっています。
「分野関連マーク」があり、３分野を通して学習することができるようにしています。
課題の追求を深めるコーナーとして、「みんなでチャレンジ」は、グループで協力しながら取り組む対話的な活動を示し、「スキルアップ」は、学習を進める上での基礎的・基本的な機能を身に付けるコーナー、「見方・考え方」は、公民的な見方・考え方を活用して考察することで、学習を深める学習ができ、「公民にアクセス」では、本文の学習内容を詳しく説明したり、関連する内容を取り上げたりしているコーナーで、学習の充実が図れます。
「18 歳へのステップ」として、選挙の流れの学習、「契約のあれこれ」などは、18 歳に向けて準備するページで、これから必要な知識として重要です。「もっと公民」は、本文の学習内容をもっと深めたり、広げたり、姿勢を変えて捉えたりするものとして興味深い内容です。
「まとめの活動」は、「探究課題」の解決をしますが、とても充実していました。
巻末の資料は、現代社会の歩み、世界の現状、また参考法令集は解説があり、とても参考になりました。
以上の点から、「東書」を推薦します。

○北内委員
北内です。
公民に関しては、「東書書籍」を推薦します。
各章に「探究課題」が示され、生徒がこれから何を学ぶのか明確になっています。そして、段階的に深い学びができるように構成されています。
それから、ＳＤＧｓ、オリンピック・パラリンピック、地球環境問題、そして指導要領にありましたように、選挙について詳しく解説されています。
そして、大田区関連として「羽田空港のピクトグラム」、「ベトナム人の介護福祉士」、「大田市場」、「カメラ・プリンター製造企業Ｃ社の社会貢献活動」のテーマで写真が載っています。
さらに、デジタル教材が非常に充実しています。自学自習に向いています。
以上の点から、「東京書籍」を推薦しました。

○深澤委員
深澤でございます。
私は、「東京書籍」を推薦いたします。その理由は３つあります。
１つ目は、持続可能な社会の実現という観点から、一貫して本書を構成している点です。
巻頭において、公民では、「現代社会のさまざまな課題について、それを解決し、持続可能な社会を実現するにはどうしたらよいかを学習していく」として、公民を学ぶ目的を明確にしています。
続く第１章では、現代社会の特色を学びますが、冒頭で、持続可能な社会とは何か、な

ぜそのような視点が必要なのかを示し、現代時代の特徴であるグローバル化、少子高齢化、情報化などを知識として学ぶのではなく、そのような課題をどのように解決し、50年後、100年後の世代につなげていくかを考えるような学習となっています。

「もっと公民」という学習を深めるページでは、その章で学習したことと少し視点を変えて、社会で現実に起きている様々な問題点を挙げています。それを持続可能な観点からどのように解決してきたか。そして、現状はどうなっているのか示されている点が良いと思いました。

２つ目は、人権について考える視点を大切にしていることです。

人々の生活が進歩するに伴い、憲法制定時には想定されていなかった新しい人権が主張されるようになりました。産業・科学技術の進歩、情報化・国際化の進展により、様々な権利が生まれてきます。新しい人権は、憲法第 13 条が根拠と考えられていますが、人権としてこれから新しく保障したらよいと思うものは何か、その理由は何かを考えてみるなど、既に権利として認められているものを学ぶだけではなく、多角的な視点から、新しい権利について、自分の頭で考える視点を大切にしている点が良いと思いました。

３つ目は、巻末に、本文中に出てきた用語の解説が掲載されていることです。

どの教科書にも、本文中にでてきた事項に関連する法令の記載はありましたが、「東京書籍」では更に本文中の用語解説が添付されており、解説の内容も簡潔かつ分かりやすいのが良いと思いました。

以上から、私は、公民については「東京書籍」を推薦いたします。

〇弘瀬委員

弘瀬です。

公民は、「東京書籍」を推薦いたします。

「東京書籍」は、初めの導入では「探究課題」を設け、展開、まとめと章末で課題を解決する展開となっております。

導入では、学習活動が分かるアイコンの選定、場面設定を理解するためのイラストや対話学習のための「みんなでチャレンジ」などを設け、生徒が興味を持ち、学習意欲を高めるように工夫されていると思います。

見開きの右下には、「チェック＆トライ」の項目があり、学習課題が解決できるようになっています。

まとめでは、「探究課題」の解決を導くための「探究ステップ」、トゥールミン図式、マトリックスなど、多くのツールを用いていることで、深い学びに結び付けられると思います。

ＳＤＧｓを用いて課題を読み解く教材として、伝統的文化などについては、「オリンピック・パラリンピックと日本の心」、があり、また防災については、「東日本大震災からの復興と防災仙台市を例に考える」で生徒の防災への意識を高めるための教材として参考になります。

第４章４節で、社会保障制度における日本の医療保険制度の仕組みや、18歳で選挙権を持つようになる前に「18歳のステップ」など学習しておくことも重要と考えます。

豊富なデジタルコンテンツ、ユニバーサルデザインなど、生徒に配慮された教科書にな

ると考えます。
巻末の参考法令集は、大変充実していると思います。
最後に、「空港のピクトグラム」、「大田市場」、「カメラ・プリンター製造企業C社の社会貢献活動」など、多くの大田区に関連あるものが掲載されてい~~まし~~て、これらも生徒の学習意欲を高めることに結び付くと思われます。
以上の理由で、「東京書籍」を推薦いたします。

○教育長
私も公民は、「東書」が良いと思いました。
公民は、社会の形成者としての資質・能力の育成を図る教科でございます。「東書」では、教科書の初めの見開きに、「持続可能な社会の実現に向けて」というページがありまして、環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、情報・技術、防災・安全などの課題があります。
また、「現代社会の特徴と私たち」という最初の学習において、持続可能な社会という大きな概念から、社会の様々な課題を捉え、その上で、グローバル化、少子高齢化、情報化と、現代社会の多様な課題を学ぶように展開しています。
私も、これからの社会の課題を持続可能な社会づくりの視点で捉えていくということは、大変大切であると思います。他の者が少子高齢化など、個別の課題から学習を始めるのに対して、持続可能な社会づくりから学習に入っていくということは、他の者に比べて学習の構想がしっかりしていると感じました。
また、文章の表記についてですが、「東書」は、初めに言葉の概念を規定して、そのことについて説明を行っていく文体になっていると感じました。
例えば、「グローバル化」という単元では、書き出しで、「グローバル化とは、情報などの移動が、国境を越えて地球規模で広がることを言います。」とグローバル化とはどのようなことかを述べてから、近年のグローバル化の状況を説明しています。いわゆる、頭括型の述べ方です。他の者は、現在の状況を説明してから、このような状況をグローバル化といいますと、尾括型の説明をしているものが多いと思いました。
生徒にとっては、概念規定をしっかりしてから、説明をしてもらう方が分かりやすいと思っております。このように、初めに言葉の概念をはっきりさせてから、説明に移るという述べ方について、「東書」の文章は、概念や内容が非常によく整理されていて、読んで分かりやすいという点で、教科書として良さがあるのではないかと思っています。
また、歴史の教科書についても述べさせていただきましたが、「学習課題」が非常に簡潔で分かりやすく、課題解決型の学習に有効であると捉えております。
それでは、審議のまとめをいたします。
社会（公民）につきましては、「東書」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長

それでは、社会（公民）につきましては、「東書」といたします。
続いて、地図について審議いたします。地図の発行者は、２者でございます。
委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○三留委員
地図は、２者のうちの「帝国書院」を推薦します。
「帝国」、「東書」ともに、全体的には似たような紙面構成になっています。大きな違いは、「帝国」がＡ４判、「東書」はＡＢ判になっているところです。地図自体の大きさは、ほとんど変わりません。収納や持ち運びには、「東書」のＡＢ判が良いと思われますが、Ａ４判の「帝国」の場合、南北への広がりを感じられたり、余白の部分の資料が大きくとれたりする利点があります。例えば、中国地方の地図では、「帝国書院」の地図は、「東書」と比べると、日本海側を大きくとることができ、隠岐諸島を別の囲みにしないで掲載できています。また、見開き左上には、広島市中心部の地図を大きく掲載することができています。
ヨーロッパ州全体の地図でも、地図の縮尺はほぼ同じですが、「帝国」は地中海のほぼ全てを載せることができています。
また、世界の地形図のページでは、２つの者とも、陸と海の割合であるとか、火山と地震に関わる地図資料が下のスペースに載せられていますが、「帝国」の場合、そのほかに、「動く大地」、「陸半球と水半球」というような興味深い資料も掲載されています。
全体的に、各種地図・統計が豊富で見やすく、地理等の学習を補完する役割を十分備えていると考えました。
世界各州の資料のページでは、州や中心地域のイラストの入った親しみやすい鳥瞰図や植生と土地利用、人口密度などが一貫して示されており、それぞれの特色がよく分かります。日本の各地方の資料のページには、自然、人口、産業、交通などの資料が各地方に必ず載せられており、それぞれの特徴をつかむことができます。
地図の示し方も、多様になっていると思います。多様な図法の地図を使って、効果的に資料化したり、南北が逆さになっている興味深い地図を活用したりしています。
南北アメリカ州の地図には、同縮尺・同緯度に置いた日本の形や地球の正反対に置いた同縮尺の日本の形が記されています。同様に、各州の地図にも、日本の国土の広さと比べられるように、同縮尺の日本の形が記されています。北海道の地図には、択捉島の近くに同じ縮尺の沖縄の形が記されています。生徒の学習の広がりにつながります。
また、「帝国」は、防災の資料が充実しているのが特色だと思いました。日本各地の災害が大規模化している現在、生徒に防災意識を持たせていくことは大切なことです。「帝国」の日本の各地方のページでは、防災に関わる資料が必ず載せられています。各地方の特色に合わせた、火山災害、水害、地震災害、雪害などに関わって、様々な情報掲示につながっています。関東地方は、東京都の大規模災害への備えなどを載せていますが、生徒に把握させておきたいことであると思いました。
さらに、「帝国」は、「地図活用」という問いに答えたり、考えたりさせる囲みがあります。内容を見ると、地図に興味を抱かせ、地理的な見方・考え方につながるものになっていると思いました。

以上、総合して地図は「帝国」を推薦することといたしました。

○高橋委員
高橋です。
地図は「帝国」を選びました。
地図、資料ともに読み取りがしやすく、使い方・資料図のページ、世界のページ、日本のページ、統計のページ、索引のページ、それぞれ帯の色を変えて見やすくなっています。
「○○州を眺めてみよう」では、６州全てに鳥瞰図が掲載され、地域を体感できるようになっています。
それぞれの州の資料では、名所、名産品、衣装が示され、興味深い地図になっています。
日本の地形では、日本の生活・文化を学習できます。
地図の活用は、地図から分かることを整理したり、説明したりできるようにする学習です。「日本の自然災害・防災」では、主な地表の震源が掲載され、プレートの境界とともに分かりやすくなっています。巻頭で、世界の国々を様々な見方で示し、巻末の資料では、日本の領土とその周りの国々が掲載されています。
手話による地名の表現方法が示され、知識として興味を持てます。
日本の地図は、地方ごとの資料が多く、巻末の資料の都道府県の昔の国名は、参考になりました。
以上の点から、「帝国」を推薦します。

○北内委員
北内です。
地図は、正直迷いましたが、私は「東京書籍」を推薦します。
理由は、まず、内容が充実しています。それから、大田区全体が詳しく詳解されています。そして、ＳＤＧｓを見開きで解説しています。東京オリンピック・パラリンピック東京 2020 の会場についても詳しく説明しています。
デジタル動画がやはり充実していて、自学自習に向いていると思いました。これは、先にも言いましたが、両出版社とも北極海の正距方位図法がないので、載せて欲しいと思いました。冷戦や地球環境問題、温暖化、北極海航路、資源争奪戦、そういうものを学習する上で、北極海を上から見た図はあった方が良いと感じました。
具体的なところでは、例えば、京都の地図を載せていますが、寺社仏閣を絵で描いているので、これは分かりやすいと思いました。それから、各資料の内容をおさえるとき、単に写真を載せるだけでなくて、絵で描いているので、今何を学んでいるのかよく分かります。
また、「日本の生活・文化」というところで、ご当地の名産やゆるキャラなども載っていて、親しみを持って学べると感じました。
地図について、日本地図も世界地図もそうなのですが、２次元水平面だけなく、鉛直断面で高低差が分かるものも全て載せています。

歴史との関連で、時代ごとの変化なども詳しく載っています。
以上から、私は「東京書籍」を推薦しました。

○深澤委員
深澤です。
私は、地図は「帝国書院」を推薦します。理由は２つあります。
１つ目は、Ａ４判であるため、紙面が大きく、図も文字も大きくて明瞭で見やすいということです。
色彩も豊かで、世界の鳥瞰図は６州全て掲載され、山脈の高さ、高原、乾燥地帯等が分かりやすく示され、海溝の深さも濃淡で把握することができます。また、その地方の特徴をビジュアルなロゴで表しているので、視覚的に楽しく示されていると思いました。例えば、ケネディ宇宙センターはロケットの絵、サンフランシスコはゴールデンゲートブリッジの絵で示されています。
２つ目は、日本地図ですが、近畿地方を例にとると、近畿地方の一般図、大阪湾周辺の地形図がそれぞれ見開き１ページで掲載され、大阪市中心部、京都市中心部が１ページずつ、そのほかに近畿地方の資料が見開き１ページあり、地図も資料も豊富であると思いました。
江戸時代に整備された五街道についても、１ページ見開きで記載があり、そこには西回り航路や菱垣廻船の航路なども記載されており、地図の授業のみでなく歴史や他の教科においても有用であると考えました。
以上の理由から、私は、地図については「帝国書院」を推薦します。

○弘瀬委員
弘瀬です。
地図は、「帝国書院」を推薦いたします。
Ａ４判で全体に大きく分かりやすくなっていると思います。巻頭の「地図帳の使い方」が、５ページにわたって詳しく書かれていて、勉強になりました。
世界の自然、産業、歴史など、様々な情報が地図上に載っていて、幅広い知識が身に付くと考えます。
世界の６州全てに鳥瞰図を用い、より立体感があり、興味を持って学習することができます。
地図帳を活用するための方法や地形図を読み取るための具体的な手順を示すことで、地図帳や地形図をより深く読み取ることができるようになると思います。
地図上の地名の漢字には、全て振り仮名を振り、正しく読めるような配慮がされております。
また、都道府県などの重要な箇所には、白で囲いユニバーサルデザインを意識して作成していると考えます。
ハザードマップなど、防災に対する意識を深めるための教材が大変すばらしいと思います。
２次元バーコードには、「小学校の復習をしよう」というコンテンツが納められてい

て、小学校で学習した基本的・基礎的学習が身に付くと考えます。
　日本の一般図では、各地方の伝統文化に関する絵記号、日本の伝統文化としての街並み、方言、祭り、料理に関する地図や写真が多く載っていて、各地方の理解を深める助けになると思います。
　左ページの下には、国旗が載っています。特に、オーストラリアとニュージーランドの国旗は非常によく似ています。基本的には、イギリスの統治下にあったこと、南十字星が描かれているが、星の数、形、色などの違いがあり、比べてみると面白いと思います。
　そのほか、関東地方の地図には、大田区の地名、建物、例えば、大森貝塚、洗足池、本門寺など、多くの大田区関連の場所が掲載されていました。
　巻末には、手話による紙面を表現するコーナーがあり、聴覚障害やインクルーシブな教育に配慮されていると思いました。
以上から、「帝国書院」を推薦したいと思います。

○教育長
　私も地図は、「帝国」が良いと思いました。
　「帝国」の地図は、判が大きいことで、その分、情報量が多く見やすく感じます。また、土地の高低が色の濃淡ではっきりと表現されていて、地形などが分かりやすいという見やすさがございました。
　時々ニュースで出てくるイスラエル、パレスチナであるとか、朝鮮半島など、中央アジアの地図が示されていて、都市の位置を確かめることに適していると思いました。
　また、アメリカ大陸やヨーロッパ大陸、アフリカ大陸などの地図に、同じ縮尺・同じ緯度などの日本が示されていて、小さな工夫かもしれませんが、国土の広さの違いや日本の気候との比較というのが工夫をされていると思いました。
　さらに、地図上の文字が比較的太くて、地図で地名などを探しやすいと思いました。
　それでは、審議のまとめをしたいと思います。
　審議では、「東書」を評価する意見もございましたが、「帝国」を評価する意見が多かったように思います。
　地図につきましては、「帝国」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長
　それでは、地図につきましては、「帝国」といたします。
　続いて、数学について審議いたします。数学の発行者は７者ございます。
　委員の皆様、ご意見をお願いします。

○三留委員
　数学は、「東書」を推薦いたします。
　数学については、問題解決の見通しを立て、生徒が発見的に解法を把握できるようにし

て、数学的な見方・考え方を深めていけるような学習が大切と思っております。

各者、冒頭で、数学の問題解決に触れていますが、「東書」は、「大切にしたい数学の学び方」というページを各学年見開きで取って、問題解決の過程をキャラクターの対話を入れながら説明しています。

数学の授業においては、問題把握、見通し、自力解決、交流、集団検討、振り返り、広げるというような過程が必要と考えておりますが、「東書」は、このことについて、分かりやすく書いてあると思います。１年生の０章や、各学年の「深い学び」には、この過程に沿った学びが分かるように記載されております。さらに、日常の授業の多くを、教科書を活用して、一層問題解決的にしていくべきと考えております。

「東書」は、各見開きページの初めに、課題と問題が示されています。その後、「例」で解法を捉えさせ、「問い」で習熟を図るような構成になっています。「例」は赤、「問い」は青で統一されていて、範囲を示す線も引かれていて、見やすく、学習しやすくなっています。

１年生に、０章「算数から数学へ」を置いたのは、「東書」の特色です。九九の表から、決まりを見付けさせ、素数・素因数分解などにつなげています。小・中の接続単元として、初めて数学を学ぶ生徒にとっては、取り組みやすくなるとも思いました。

また、東書は単元の導入の示し方が、生徒の興味を抱かせるものが多いと感じました。例えば、３年生の「多項式の計算」では、他者では、面積図を活用した導入が多い中、ドミノ倒しのコースを示し、どのコースが先にゴールするかという投げ掛けをして、学習を始めています。これについては、２次元バーコードから入るシミュレーション等で、その様子を見ることができます。こうしたインパクトのある導入は、生徒を学習に引き付けていくと思います。同じく、３年生の関数の学習では、「東書」を含め２者がジェットコースターの動きを扱っていますが、生徒の興味・関心を持たせるのに、良い導入だと思いました。これもシミュレーション動画でその様子を実感できます。

新しい指導要領になる２年生「箱ひげ図」について、各社の記載を比較しました。「東書」は、「スナック菓子の売上げの花見期間と直前期間の平日と休日の比較」を問いとして、コンビニの実際のデータを用いて、商品の売れ方の分析の仕方について、単元を通して学ぶような構成になっています。数学と実社会、実生活との関係を感じさせる上でも良い教材と思いました。

また、片側観音開きの見開きで、箱ひげ図の説明が書かれているページとデータの両方を見ながら、表や箱ひげ図を教科書への書き込みで作成する構成になっています。このような構成は、作業がしやすく、箱ひげ図の理解と書き方をマスターしやすいと考えます。次のページで、ヒストグラムと箱ひげ図の違いを考えさせたり、他の商品を含めた傾向を調べさせたりしています。生徒が分かりやすく、「多数のデータの分布を比較するときに比べやすい」という箱ひげ図の特徴を生徒自らが気付くことができると思いました。

また、「東書」は、載せられている問題が充実していると思いました。章末の問題は、学習の習熟を確認する問題Ａと、活用問題Ｂがあり、各学校の実態に即して使えると思いました。巻末にある補充問題も、基本的な内容の理解を確かにする問題と難易度の高い問題があり、これも様々な活用が考えられます。

３年生の巻末の「学びのつながり」では、３年間の学習で重要な内容を分かりやすくま

とめています。振り返りをする意味で大切なことだと思いました。
　以上、総合して「東書」を推薦することといたしました。

○高橋委員
　高橋です。
　数学は、「東書」を選びました。
　導入に０章「算数から数学へ」を設け、「九九表のきまりを見つけよう」として、小学校の算数の九九表から自然数や素数、素因数分解などにつなぐ指導が始まるので、興味を持って取り組めると思います。
　「数学マイノート」には、学習の振り返りをノートに残しておく例が示されています。
　１章から、「数学の世界を広げよう」で中学校の学びになり、「基本の問題」で基本的な内容の理解を確認する、「数学のまど」で学習に関連した読み物や問題があり、「章の問題」では、章の内容を確認する問題、章の内容を応用したり、活用したりする問題で学習できます。
　「例」、「問」など、色分けが統一されていて見やすいです。１年生の「学びを広げよう」では、「デザインにひそむ数学」として、オリンピック・パラリンピックのエンブレムについてのページがあり、興味・関心を持つ学習ができます。
　２年生の新たな内容「四分位範囲・箱ひげ図」の学習では、実生活に即した題材で、データの活用についての知識及び技能を身に付け、データを比較し分析するまで一貫した学習活動が行えます。
　学年ごとに確認ページがあり、３年生の巻末には、「学びのつながり」として、３年間の学習で重要なポイントを学年別にまとめています。枠の色と形を変えて内容を分類し、どの学年のどの領域で学習したかが分かりやすく掲載されているので、振り返りがしやすいと思います。
　以上の点から、「東書」を推薦します。

○北内委員
　北内です。
　数学に関しては、「東京書籍」を推薦します。
　理由は、まず、数式や数直線、グラフ、図形の表示方法にそれぞれ統一感があり、生徒が誤解しないように配慮されています。ちょっとしたずれがあったり、文字が違ったりしただけで、誤解してしまうことがあります。そのとき、生徒だけでやらずに先生に聞いたらいいのですが、なかなか聞けない子どももいまして、そういう誤解をしないための配慮があると感じました。
　それから、０章を設けて、小学校の算数から中学校の数学への導入を図っています。それと、２年生の四分位範囲と箱ひげ図の内容が非常に充実しています。これらは、中学生の理解が怪しいと思うところを詳しく説明しています。
　課題の選定が素晴らしいと思いました。課題が常に科学を意識しているというのを感じます。「ものづくりのまち」大田区に生きていると感じます。
　デジタル教材は非常に充実しています。自学自習ができます。補充問題があって、自分

でどんどん進めることができます。
　具体的には、１年生のところで、棒をコの字型に並べていくのですが、これは２次元でやるのですけど、その次の章で、立体的にやるので、これも二転三転すると理解できないと思うのですが、ちゃんと段階を追って丁寧に説明されていると感じました。
　ほかの章の始まりも、図や絵があって、それに対する充分な解説を設けていて良いなと思いました。
　それから、科学を感じるというのは、例えば、１次関数を説明するのに等速直線運動を使って、２次関数を説明するときに等加速度運動を使っています。その次に、自由落下とか、振り子を使っているのが、物理学をやっている人なら分かると思うのですが、にくいなと思います。将来的な発展につながるとすごく感じます。
　それと、もう１つ、富士山の高さを図る問題があり、これも非常に良い問題の選出だと思いました。富士山があって、平らな地球であれば、遠く離れても全体が見えるのですが、実際、丸い地球になると、少し離れていくと裾野から見えなくなります。これを更に発展させていくと、地球がなぜ丸いか証明することを習っていきます。そのようなことをよく考えていると思いました。
　挙げるときりがないのですが、以上の点から、「東京書籍」を推薦しました。

○深澤委員
　深澤です。
　私は、「東京書籍」を推薦します。
　１つ目は、算数から数学へのスムーズな移行を意識しているという点です。
　現行では、小学校５年で学んでいた素数と中学校３年生で学んでいた素因数分解を、改定後は、中学校１年生で取り扱うことになりました。「東書」では、正負の数を学ぶ前に、「算数から数学へ」という題名で０章を設け、小学校で学んだ九九の決まりから自然数、素数、素因数分解を説明し、思考力・表現力を高めるために、「数学マイノート」の作成を提案しています。
　２つ目は、生活に密着した数学的な考え方を学ぶことは、子どもたちが数学に興味を抱くきっかけになると同時に、グローバル化社会において、将来子どもたちが数学的なものの見方・考え方をする素地を作り、社会に出てから有用であると考えます。そのためには、日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決していくというアプローチが必要となってきますが、「東書」はこの点を意識して構成されていると思いました。
　３つ目は、数学の見方として、１年生の冒頭で、「問題をつかむ」、「見通しを立てる」、「問題を解決する」、「振り返る」、「深める」という一連の学びを紹介していますが、「問題を解決する」場面では、自分なりに考えた上で、ほかの人の考えと比べることで、学習を深めることにつながるとしています。
　章の最後に、必ず掲載されている「深い学び」のページでは、自分の求め方と複数の友達の求め方を紹介して回答を導き出した上、その次の「振り返る」に進むという過程を一貫して繰り返しています。このような学習方法は、主体的かつ発展的な学習であり、良いと思いました。

以上の理由から、私は、「東京書籍」を推薦します。

○弘瀬委員
弘瀬です。
数学は、「東京書籍」を推薦いたします。
０章「算数から数学へ」で、小学校の算数と中学校の数学の接続を意識した章を設け、学び方の基本が身に付くようになっていると思います。特に、掛け算九九表の決まりについて話し合うことで、数の面白さが分かると思います。
１年生の「数学マイノート」を作成し、友達の考え方あるいは感想などを書くことにより、振り返りが分かりやすくなると思いました。
また、１節では、整数の性質で整数、素数、素因数分解を扱うようになっていて、生徒がつまずかないように配慮されていると思います。
１年生の１節では「文字を使った式」、２節では「文字式の計算」、３節では「文字式の利用」と、徐々に考え方が身に付くように配慮されていると思います。
また、「待ち時間の予想はできるかな」では、人数と時間の比例の考え方を、「どちらの並びがよいかな」では、統計的な考え方を理解し、問題を解くようにしています。
「学びを広げよう」の「デザインにひそむ数学」で、「オリンピックのエンブレムの作者に聞いてみよう」は、デジタルコンテンツを使って、とてもよく理解でき、大変面白く楽しむことができました。
２年生では、「中火と強火どちらで沸かす」など身近な問題を利用して、時間と温度の関係から１次関数の考え方を導くなど、数学は難しいと考えず、日常生活において数学的な考え方が非常に役に立つことを考えさせていく作りになっていると思います。
１年生の１次方程式の利用では、兄と弟のイラストが実際に動いて追い付く様子、２年生は、平行線の間の角度を調べるのに図の点や線を動かし、３年生では、４種類のコースが描かれて、先にゴールするのはどれかなど、豊富なデジタルコンテンツ、実験映像で楽しく考えることができます。ヒストグラムや箱ひげ図を比較し、複数のデータを比較するときには、箱ひげ図が分かりやすいなど、興味を引くところです。
以上から、「東京書籍」を推薦いたしました。

○教育長
私も、数学は「東京書籍」が良いと思いました。
大田区では、全ての生徒に数学の力を付けていくということで、実践的に習熟度学習、補習授業などを通じて取り組んでおりますが、分かりやすくて丁寧に学習を積み上げられるというところで、「東京書籍」は一日の長があると思います。
小学校の算数から中学校の数学へ移行していく、中学校１年生で初めて学習するのは、正の数・負の数というところです。生徒にとっては、分かりにくいというのはあります。例えば、０より小さい負の数を、数直線で理解するというようなことはありますが、「東書」の数直線につきましては、同一のページでは、全て同じ大きさにしている、そういう間隔をしっかりと理解するということで、生徒に分かりやすい工夫があり、丁寧に指導がされているように思います。

また、例題などを使った学習の進め方についても、スモールステップで１つずつ学習を積み上げて、繰り返していく過程が丁寧に取り上げられていると思います。

関数や図形の学習など、数学のどの領域においても、図などによる説明の補足も丁寧で、非常に丁寧な学習の教えになっていると考えます。

それでは、数学の審議のまとめをしたいと思います。

数学については、「東書」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長

それでは、数学については、「東書」といたします。

以上で、本日の教科書採択についての審議を終了いたします。

次回は、明日、８月 12 日、水曜日、午後２時に開催する臨時会において、理科、音楽（一般）、音楽（器楽）、美術、保健体育、技術・家庭（技術）、技術・家庭（家庭）、英語、道徳の９種目について審議を行います。

各委員は、引き続き調査研究をお願いいたします。なお、令和３年度使用大田区立中学校教科用図書採択については、議案の決定をもってなされるため、明日の審議終了後に議案の提出がなされまして、議決をいただく予定であることを申し添えておきます。

これをもちまして、令和２年第７回教育委員会定例会を閉会いたします。

（午後４時 25 分閉会）